

注3

大学番号：054

[平成26年度設置]

計画の区分：研究科の専攻の設置

注1

事前伺い

京都工芸繊維大学大学院 工芸科学研究科
デザイン学専攻及び建築学専攻

注2

【事前伺い】 設置に係る設置計画履行状況報告書

国立大学法人 京都工芸繊維大学
平成26年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名	総務企画課		
職名・氏名	フクカチョウ 副課長	イトウ 伊藤	シゲノブ 滋延
電話番号	075-724-7013		
（夜間）	075-724-7013		
F A X	075-724-7010		
e-mail	itou_shi@jim.kit.ac.jp		

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には設置時の旧名称を記載し、その下欄に（ ）書きにて、現在の名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部

(□□学部(平成◇◇年度より変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」

・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」

・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」

・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

※「留意事項実施状況報告書」の場合は、表題を修正してください。

3 大学番号の欄については、平成26年3月20日付事務連絡「大学等の設置に係る設置計画履行状況報告書の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目 次

1. 調査対象大学等の概要等	・・・・・・・・	1
2. 授業科目の概要	・・・・・・・・	7
3. 施設・設備の整備状況，経費（事前伺いのため記載せず）		
4. 既設大学等の状況	・・・・・・・・	17
5. 教員組織の状況	・・・・・・・・	19
6. 留意事項に対する履行状況等（事前伺いのため記載せず）		
7. その他全般的事項	・・・・・・・・	20

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

国立大学法人 京都工芸繊維大学

(2) 大学名

京都工芸繊維大学大学院

(3) 大学の位置

〒606-8585

京都府京都市左京区松ヶ崎橋上町1番地

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(5) 調査対象研究科等の名称, 定員, 入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等, 定員を定めている組織ごとに記入してください。
 (入試区分ごとではありません)。
 ・ 様式は, 平成24年度開設の博士後期課程の場合(平成26年度までの3年間)ですが, 開設年度・
 修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が2年以下の場合には欄を削除し, 4年以上の場合
 には, 欄を設けてください。)

(5) - ① 調査対象研究科等の名称, 定員

調査対象研究科等 の名称(学位)	設置時の計画			備 考
	修業年限	入学定員	収容定員	
工芸科学研究科 デザイン学専攻 博士前期課程(修士課程) 修士(工学)	2 年	25 人	50 人	基礎となる学部等 該当なし
工芸科学研究科 デザイン学専攻 博士後期課程(博士課程) 博士(学術、工学)	3	5	15	
工芸科学研究科 建築学専攻 博士前期課程(修士課程) 修士(工学、建築設計学)	2	75	150	
工芸科学研究科 建築学専攻 博士後期課程(博士課程) 博士(学術、工学)	3	7	21	

- (注) ・ 「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
 ・ 定員を変更した場合は, 「備考」に変更前的人数, 変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
 ・ 学生募集停止を予定している場合は, 「備考」にその旨記載してください。

(5) - ② 調査対象研究科等の入学者の状況

デザイン学専攻 博士前期課程（修士課程）

区分	報告年度		平成26年度		平成27年度		平均入学定員 超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		
A 入学定員	人	人	25	()	()	()	1.04倍	
	(-)	()	()	()	()	()		
	[-]	[]	[]	[]	[]	[]		
志願者数	39	()	()	()	()	()		
	(2)	()	()	()	()	()		
	[4]	[]	[]	[]	[]	[]		
受験者数	38	()	()	()	()	()		
	(2)	()	()	()	()	()		
	[4]	[]	[]	[]	[]	[]		
合格者数	28	()	()	()	()	()		
	(2)	()	()	()	()	()		
	[1]	[]	[]	[]	[]	[]		
B 入学者数	26	()	()	()	()	()		
	(2)	()	()	()	()	()		
	[-]	[]	[]	[]	[]	[]		
入学定員超過率 B/A	1.04							

デザイン学専攻 博士後期課程（博士課程）

区分	報告年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度		平均入学定員 超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		
A 入学定員	人	人	5	()	()	()	()	()	0.60倍	
	(-)	()	()	()	()	()	()	()		
	[-]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]		
志願者数	4	()	()	()	()	()	()	()		
	(-)	()	()	()	()	()	()	()		
	[2]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]		
受験者数	4	()	()	()	()	()	()	()		
	(-)	()	()	()	()	()	()	()		
	[2]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]		
合格者数	4	()	()	()	()	()	()	()		
	(-)	()	()	()	()	()	()	()		
	[2]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]		
B 入学者数	3	()	()	()	()	()	()	()		
	(-)	()	()	()	()	()	()	()		
	[2]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]		
入学定員超過率 B/A	0.60									

建築学専攻 博士前期課程（修士課程）

区分	報告年度		平成26年度		平成27年度		平均入学定員 超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		
A 入学定員	人	人	75	()	()	()	0.98倍	
	(-)	()	()	()	()	()		
	[-]	[]	[]	[]	[]	[]		
志願者数	103	()	()	()	()	()		
	(-)	()	()	()	()	()		
	[8]	[]	[]	[]	[]	[]		
受験者数	94	()	()	()	()	()		
	(-)	()	()	()	()	()		
	[8]	[]	[]	[]	[]	[]		
合格者数	80	()	()	()	()	()		
	(-)	()	()	()	()	()		
	[7]	[]	[]	[]	[]	[]		
B 入学者数	74	()	()	()	()	()		
	(-)	()	()	()	()	()		
	[4]	[]	[]	[]	[]	[]		
入学定員超過率 B/A	0.98							

建築学専攻 博士後期課程（博士課程）

区分	報告年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度		平均入学定員 超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		
A 入学定員	人 7 (-) [-]	人	人	人	人	人	人	人	1.00倍	
志願者数	7 (6) [-]	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []		
受験者数	7 (6) [-]	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []		
合格者数	7 (6) [-]	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []		
B 入学者数	7 (6) [-]	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []		
入学定員超過率 B/A	1.00									

- (注) ・ 数字は、平成26年5月1日現在の数字を記入してください。
- ・ () 内には、社会人の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 「社会人」については、設置計画書において貴学が定める社会人の定義に従って記入してください。
 - ・ [] 内には、留学生の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「入学定員超過率」については、**各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出**してください。なお、計算の際は**小数点以下第3位を切り捨て、小数点第2位まで記入**してください。
 - ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお、**計算の際は「入学定員超過率」と同様に**してください。

(5) - ③ 調査対象研究科等の在学者の状況

デザイン学専攻 博士前期課程（修士課程）

対象年度 学 年	平成26年度		平成27年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	[-] 26	[]	[]	[]	
2年次	/		[]	[]	
計	[-] 26	[]	[]	[]	

デザイン学専攻 博士後期課程（博士課程）

報告年度 学 年	平成26年度		平成27年度		平成28年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	[2] 3	[]	[]	[]	[]	[]	
2年次	/		[]	[]	[]	[]	
3年次	/		/		[]	[]	
計	[2] 3	[]	[]	[]	[]	[]	

建築学専攻 博士前期課程（修士課程）

対象年度 学 年	平成26年度		平成27年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	[4] 74	[]	[]	[]	
2年次	/		[]	[]	
計	[4] 74	[]	[]	[]	

建築学専攻 博士後期課程（博士課程）

対象年度 学 年	平成26年度		平成27年度		平成28年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	[-] 7	[]	[]	[]	[]	[]	
2年次	/		[]	[]	[]	[]	
3年次	/		/		[]	[]	
計	[-] 7	[]	[]	[]	[]	[]	

- (注) ・ 数字は、平成26年5月1日現在の数字を記入してください。
 ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	入学者数(b)	退学者数(a)	退学者数(内訳)			主な退学理由	入学者数に 対する退学者数 の割合 (a/b)
			退学した年度	退学者数	退学者数の うち留学生数		
平成26年度 入学者	デザイン学専攻 博士前期課程 26人	0人	平成26年度	0人	0人		0%
	デザイン学専攻 博士後期課程 3人	0人		0人	0人		0%
	建築学専攻 博士前期課程 74人	0人		0人	0人		0%
	建築学専攻 博士後期課程 7人	0人		0人	0人		0%
合 計	110人	0人					0%

(注)・数字は、平成26年5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各年度の入学者数については、該当年度当初に入学した人数を記入してください。(途中で退学者がいた場合でも、その退学者数を減らす必要はありません。)
- ・各年度の退学者数については、退学年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記入してください。
- ・「入学者数に対する退学者数の割合」は、【当該対象年度の入学者のうち、平成26年5月1日現在までに退学した学生数の合計】を、【当該対象年度の入学者数】で除した割合(%)を記入してください。その際、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

2 授業科目の概要

<工芸科学研究科 デザイン学専攻（前期課程）>

（1）授業科目表

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専攻共通科目群	デザイナー職能論	1・2前	2			5	6		2	1	授業内で実施する施設検索や制作などのフィールドワークについて、訪問先の都合により開講期を後期から前期に変更しました	
	アドバンストデザインプロジェクトⅠ	1通		2		5	6					
	アドバンストデザインプロジェクトⅡ	2通		2		5	6					
	伝統文化とデザイン	1・2後前		2		2						
	技術革新とデザイン	1・2前		2			2			兼1		
	社会問題とデザイン	1・2前		2		1				兼2		
	日本建築史特論	1・2前		2						兼2		
	世界建築史特論	1・2後		2						兼3		
	情報デザイン論	1・2後		2		1				兼1		
デザイン解析工学	1後		2			1						
専攻科目群	デザイン学領域	デザインプロジェクトA	1・2前	6			4	3		2	1	科目内容の充実を図るため、専門分野の兼任教員1名を科目担当者に追加しました。
		デザインプロジェクトB	1・2後	6			4	3		2	1	
		イノベーションデザインプロセス	1～2通		8		1	1		1		
		フィジカルインタラクションデザイン	1・2前		4		1	1			1	
		ソーシャルインタラクションデザイン	1・2後		4			2				
		プロダクトデザイン論	1・2前		2		1	1				
		グラフィックデザイン論	1・2前		2		1	1				
		メディアデザイン論	1・2後		2			1		1		
		インテリアデザイン論	1・2後		2		1			1		
		デザイン学インターンシップⅠ	1～2通		6		4	3		2	1	
		デザイン学インターンシップⅡ	1～2通		6		4	3		2	1	
		デザイン学特別講義A	1・2前		1		4	3		2	1	
		デザイン学特別講義B	1・2後		1		4	3		2	1	
		特別制作	1～2通				4	3		2	1	
	価値創造学領域	保存活用デザイン論	1・2前		2							
都市基盤学		1・2後		2							兼2	
建築・都市再生学演習		1・2通		4							兼5-6	
保存再生技術演習		1・2前		4							兼4	
芸術学特論		1・2前		2			1					
造形史特論		1・2後		2			1					
美術史学特論		1・2前		2		1						
芸術空間論		1・2後		2			1					
美術展示特論		1・2前		2		1	2					
建築展示特論		1・2後		2							兼4	
博物館資料実習Ⅰ		1前		2		1	3				兼4	
博物館資料実習Ⅱ		1後		2		1	3				兼4	
博物館資料実習Ⅲ		2前		2		1	3				兼4	
博物館資料実習Ⅳ		2後		2		1	3				兼4	
価値創造学演習Ⅰ	1通	4			1	3				兼4		
価値創造学演習Ⅱ	2通	4			1	3				兼4		
研究指導	1～2通				1	3				兼4		

- (注) ・ 設置計画書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
- ・ 設置時の授業科目全て(兼任、兼担教員が担当する科目を含む。)を黒字で記載してください。その上で、前年度報告時(平成26年度に設置された大学等は設置時)より変更されているものは赤字で見え直し修正し、「備考」に赤字で理由・変更年月等を記入してください。
 なお、昨年度の報告書において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 兼任、兼担の教員が担当する授業科目については、備考欄に担当する教員数を「兼〇」と記入してください。
 - ・ 授業科目を追加又は内容を変更する場合で、専任教員が担当するため教員審査が必要なものについては、「専任教員採用等設置計画変更書」の審査年月等を「備考」に記入してください。(今後審査を受ける場合には、「平成〇年〇月 提出予定」と記入してください。)
 - ・ 「配当年次」について、設置計画時に開講時期を記入する必要がなかった学部等(平成19年度設置以前)についても、設置時の状況を黒字で記入してください。また、前年度報告時より修正があれば、赤字で見え直し修正をしてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても記入してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計	必修	選択	自由	計	
科目 5	科目 34	科目 0	科目 39	科目 []	科目 []	科目 []	科目 []	

- (注) ・ 未開講である場合や、配当年次に関わらず、教育課程上の授業科目数を記入する(資格に関する課程など、別課程としている授業科目については算入する必要はありません。)とともに、[]内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあった授業科目が配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については、記入しないでください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目と廃止科目の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計}} = \boxed{}$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点第2位までを記入してください。

2 授業科目の概要

<工芸科学研究科 デザイン学専攻（後期課程）>

(1) 授業科目表

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
学域共通科目群	芸術学・芸術史論	1・2前		2		1	1						
	造形史論	1・2・3後		2			1						
専攻共通科目群	都市再生計画論	1・2・3後		2								兼3	
	建築保存計画論	1・2・3前		2								兼3	
	伝統建築論	1・2・3後		2								兼3	
	機能デザイン論	1・2・3後		2		3	1						
	デザイン解析論	1・2・3前		2			1						
専門科目群	デザイン学領域	イノベーションデザインプロセス演習A	1・2前		3		4	3					
		イノベーションデザインプロセス演習B	1・2後		3		4	3					
		プロジェクトデザイン論	1・2・3前		2		1	2					
		デザイン学特別演習Ⅰ	1通	4			4	3		2	1		
		デザイン学特別演習Ⅱ	2通	4			4	3		2	1		
	デザイン学インターンシップⅢ	1通		6		4	3		2	1		博士前期課程に同一名称の科目があり、学生への混乱を避けるため、博士後期課程の科目名称をⅢに変更しました。	
	デザイン学インターンシップⅣ	2通		6		4	3		2	1		博士前期課程に同一名称の科目があり、学生への混乱を避けるため、博士後期課程の科目名称をⅣに変更しました。	
	研究指導	1～3通				4	3		2	1			
	価値創造学領域	建築史特論	1・2・3前		2								兼3-4 科目内容の充実を図るため、専門分野の兼任教員1名を科目担当者に追加しました。
		都市史特論	1・2・3後		2								兼3-4 科目内容の充実を図るため、専門分野の兼任教員1名を科目担当者に追加しました。
芸術展示論		1・2・3前		2		1							
芸術批評論		1・2・3後		2			1						
価値創造学特別演習Ⅰ		1通	4			1	3					兼4	
価値創造学特別演習Ⅱ		2通	4			1	3					兼4	
価値創造学インターンシップⅠ		1通		6		1	3					兼4	
価値創造学インターンシップⅡ	2通		6		1	3					兼4		
研究指導	1～3通				1	3						兼4	

- (注) ・ 設置計画書の様式第2号（その2の1）に準じて作成してください。
- ・ 設置時の授業科目全て（兼任、兼任教員が担当する科目を含む。）を黒字で記載してください。その上で、前年度報告時（平成26年度に設置された大学等は設置時）より変更されているものは赤字で見え消し修正し、「備考」に赤字で理由・変更年月等を記入してください。
- なお、昨年度の報告書において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
- ・ 兼任、兼任の教員が担当する授業科目については、備考欄に担当する教員数を「兼〇」と記入してください。
- ・ 授業科目を追加又は内容を変更する場合で、専任教員が担当するため教員審査が必要なものについては、「専任教員採用等設置計画変更書」の審査年月等を「備考」に記入してください。（今後審査を受ける場合には、「平成〇年〇月 提出予定」と記入してください。）
- ・ 「配当年次」について、設置計画時に開講時期を記入する必要がなかった学部等（平成19年度設置以前）についても、設置時の状況を黒字で記入してください。また、前年度報告時より修正があれば、赤字で見え消し修正をしてください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても記入してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計	必修	選択	自由	計	
科目 4	科目 18	科目 0	科目 22	科目 []	科目 []	科目 []	科目 []	

- (注) ・ 未開講である場合や、配当年次に関わらず、教育課程上の授業科目数を記入する（資格に関する課程など、別課程としている授業科目については算入する必要はありません。）とともに、[]内に、設置時の計画からの増減を記入してください。（記入例：1科目減の場合：△1）

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあった授業科目が配当年次に達しているにも関わらず, 何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお, 理由については可能な限り具体的に記入してください。
・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については, 記入しないでください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり, 何らかの理由で廃止(教育課程から削除)した授業科目について記入してください。なお, 理由については可能な限り具体的に記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目と廃止科目の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計}} = \boxed{}$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て, 小数点第2位までを記入してください。

2 授業科目の概要

<工芸科学研究科 建築学専攻（前期課程）>

(1) 授業科目表

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専攻共通科目群	建築家職能論	1・2前	2			2	2					
	都市・建築設計実習Ⅰ	1前	3				8	2	6			
	都市・建築設計実習Ⅱ	1後	3				8	2	6			
	建築力学・構造特論	1・2前		2		1	1					
	建築環境・設備特論	1・2後		2							兼1	
	防災設計技術	1・2後		2			2					
	伝統建築設計技術	1・2前		2		1	2					
	建築設備設計技術	1・2後		2							兼1	
	建築構造設計技術	1・2前		2		1	1					
	日本建築史特論	1・2前		2			2					
	世界建築史特論	1・2後		2		1	2					
専門科目群	建築設計学領域	建築デザイン	1・2後		2		3	2				
		環境デザイン	1・2前		2		2	1				
		都市デザイン	1・2後		2		1			1		兼1 当初予定していた兼任教員が都合により担当できなくなったため、専任教員が担当することとしました。
		建築設計マネジメント	1・2後		2		1	2				
		地域施設設計マネジメント	1・2前		2			1	1			
		住環境設計マネジメント	1・2後		2		1					
		都市環境設計マネジメント	1・2前		2		2	3				兼1 兼任教員から専任教員に採用となったため変更しました。
		建築構造設計マネジメント	1・2後		2		1	1				
		都市・建築空間研究A	1・2前	2				8		3		
		都市・建築空間研究B	1・2後	2				8		3		
	建築設計実務実習Ⅰ	1通	4				8		3			
	建築設計実務実習Ⅱ	2通	4				8		3			
	建築設計実務実習Ⅲ	1・2通	4				8		3			
	国際設計プロジェクトⅠ	1通	2			2	8		2			
	国際設計プロジェクトⅡ	2通	2			2	8		2			
	建築設計学特別講義A	1通	1				8		3			
	建築設計学特別講義B	2通	1				8		3			
	建築設計学インターンシップⅠ	1通	6				8		3			
	建築設計学インターンシップⅡ	2通	6				8		3			
	特別制作	1～2通				5	8	1				
都市・建築再生学領域	日本都市史	1・2前		2		2		1				
	世界都市史	1・2後		2		1	1	2			科目内容の充実を図るため、専門分野の専任教員1名を科目担当者に追加しました。	
	建築保存工学	1・2前		2		1	1					
	保存活用デザイン論	1・2前		2		1	1					
	サスティナビリティ計画論	1・2前		2		1	1					
	景観学特論	1・2後		2		2	1				当初予定していた人事について、先方の都合により採用できなくなったため、専任教員1名で担当することとしました。	
	地域管理論	1・2前		2			2	1				
	都市基盤学	1・2後		2		2						
	建築・都市再生学演習	1・2通	4			3	1	2	1		兼1 科目内容の充実を図るため、専門分野の専任教員1名を科目担当者に追加しました。 兼任教員から専任教員に採用となったため変更しました。	
	保存再生技術演習	1・2前	4			1	2				兼1 兼任教員から専任教員に採用となったため変更しました。	
	近代建築保存技術	1・2前	4			1	1					
	都市再生マネジメント演習	1・2後	4			1	1					
	都市・建築再生設計インターンシップⅠ	1・2通	6			9	6	2	3			
	都市・建築再生設計インターンシップⅡ	1・2通	6			9	6	2	3			
	都市・建築再生学演習Ⅰ	1通	4			9	6	2	3			
都市・建築再生学演習Ⅱ	1通	4			9	6	2	3				
研究指導	1～2通				9	6	2	3				

- (注) ・ 設置計画書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
- ・ 設置時の授業科目全て(兼任、兼担教員が担当する科目を含む。)を黒字で記載してください。その上で、前年度報告時(平成26年度に設置された大学等は設置時)より変更されているものは赤字で見え直し修正し、「備考」に赤字で理由・変更年月等を記入してください。
 なお、昨年度の報告書において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 兼任、兼担の教員が担当する授業科目については、備考欄に担当する教員数を「兼〇」と記入してください。
 - ・ 授業科目を追加又は内容を変更する場合で、専任教員が担当するため教員審査が必要なものについては、「専任教員採用等設置計画変更書」の審査年月等を「備考」に記入してください。(今後審査を受ける場合には、「平成〇年〇月 提出予定」と記入してください。)
 - ・ 「配当年次」について、設置計画時に開講時期を記入する必要がなかった学部等(平成19年度設置以前)についても、設置時の状況を黒字で記入してください。また、前年度報告時より修正があれば、赤字で見え直し修正をしてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても記入してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計	必修	選択	自由	計	
科目 9	科目 37	科目 0	科目 46	科目 []	科目 []	科目 []	科目 []	

- (注) ・ 未開講である場合や、配当年次に関わらず、教育課程上の授業科目数を記入する(資格に関する課程など、別課程としている授業科目については算入する必要はありません。)とともに、[]内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあった授業科目が配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については、記入しないでください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目と廃止科目の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計}} = \boxed{}$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点第2位までを記入してください。

2 授業科目の概要

<工芸科学研究科 建築学専攻（後期課程）>

(1) 授業科目表

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
学域共通科目群	芸術学・芸術史論	1・2・3前		2								兼2	
	造形史論	1・2・3後		2								兼1	
専攻共通科目	都市再生計画論	1・2・3後		2		1	2						
	建築保存計画論	1・2・3前		2		2	1						
	伝統建築論	1・2・3後		2		1	2						
	伝統建築構造論	1・2・3後		2		2	1						
専門科目群	建築設計学領域	建築表現論	1・2・3後		2		4	3					
		耐震構造論	1・2・3前		2		1	1					
		建築設計監理論	1・2・3前		2		4	3					
		都市・建築設計インターンシップI	1通		6			8			3		
		都市・建築設計インターンシップII	2通		6			8			3		
		建築設計プロジェクトI	1通	3				8			3		
		建築設計プロジェクトII	2通	3				8			3		
	研究指導	1~3通				5	8			3			
	都市・建築再生学領域	建築史特論	1・2・3前		2		1	2 3					科目内容の充実を図るため、専門分野の専任教員1名を科目担当者に追加しました。
		都市史特論	1・2・3後		2		2	1	1			科目内容の充実を図るため、専門分野の専任教員1名を科目担当者に追加しました。	
		保存活用設計特論	1・2・3前		2		1	1					
		都市再生設計特論	1・2・3後		2		2						
		都市・建築活用管理論	1・2・3前		2		2			1			兼1
		都市・建築再生学インターンシップI	1・2通		6		4	3	1	3			兼1
都市・建築再生学インターンシップII		1・2通		6		4	3	1	3			兼1	
都市・建築再生学特別演習I	1・2通	3			4	3	1	3			兼1		
都市・建築再生学特別演習II	1・2通	3			4	3	1	3			兼1		
研究指導	1~3通				4	3	1	3			兼1		

- (注) ・ 設置計画書の様式第2号（その2の1）に準じて作成してください。
- ・ 設置時の授業科目全て（兼任、兼担教員が担当する科目を含む。）を黒字で記載してください。その上で、前年度報告時（平成26年度に設置された大学等は設置時）より変更されているものは赤字で見え消し修正し、「備考」に赤字で理由・変更年月等を記入してください。
- なお、昨年度の報告書において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
- ・ 兼任、兼担の教員が担当する授業科目については、備考欄に担当する教員数を「兼〇」と記入してください。
- ・ 授業科目を追加又は内容を変更する場合で、専任教員が担当するため教員審査が必要なものについては、「専任教員採用等設置計画変更書」の審査年月等を「備考」に記入してください。（今後審査を受ける場合には、「平成〇年〇月 提出予定」と記入してください。）
- ・ 「配当年次」について、設置計画時に開講時期を記入する必要がなかった学部等（平成19年度設置以前）についても、設置時の状況を黒字で記入してください。また、前年度報告時より修正があれば、赤字で見え消し修正をしてください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても記入してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計	必修	選択	自由	計	
科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	
4	18	0	22	[]	[]	[]	[]	

- (注) ・ 未開講である場合や、配当年次に関わらず、教育課程上の授業科目数を記入する（資格に関する課程など、別課程としている授業科目については算入する必要はありません。）とともに、[]内に、設置時の計画からの増減を記入してください。（記入例：1科目減の場合：△1）

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあった授業科目が配当年次に達しているにも関わらず, 何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお, 理由については可能な限り具体的に記入してください。
・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については, 記入しないでください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり, 何らかの理由で廃止(教育課程から削除)した授業科目について記入してください。なお, 理由については可能な限り具体的に記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目と廃止科目の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計}} = \boxed{}$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て, 小数点第2位までを記入してください。

4 既設大学等の状況

大学 の 名 称	京都工芸繊維大学								備 考
既設学部等の名称	修業 年限	入 学 定 員	編入学 定 員	収 容 定 員	学位又 は称号	平均定員 超過率	開 設 年 度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍			
工芸科学部						1.03		京都府京都市左 京区松ヶ崎橋上 町1番地 平成26年より学 生募集停止	
応用生物学課程	4	50		200	学士(農学)	1.02	平成18年度 改組		
生体分子工学課程	4	—	—	—	学士(工学)	—	平成18年度 改組		
生体分子応用化学課程	4	50		200	学士(工学)	1.03	平成26年度 設置		
高分子機能工学課程	4	50		200	学士(工学)		平成18年度 改組		
物質工学課程	4	65		260	学士(工学)		平成18年度 改組		
電子システム工学課程	4	60		240	学士(工学)	1.04	平成18年度 改組		
情報工学課程	4	60		240	学士(工学)	1.05	平成18年度 改組		
機械システム工学課程	4	85		340	学士(工学)	1.03	平成18年度 改組		
デザイン経営工学課程	4	40		160	学士(工学)	1.02	平成18年度 改組		
造形工学課程	4	—	—	—	学士(工学)	—	平成18年度 改組		
デザイン・建築学課程	4	110		440	学士(工学)	1.00	平成26年度 設置		
上記課程共通			45	90					
先端科学技術課程	4	40	5	170	学士(工学)	1.02	平成18年度 改組		
工芸科学研究科博士前期課程						1.04			
応用生物学専攻	2	40		80	修士(農学)	1.06	平成18年度 改組		
生体分子工学専攻	2	35		70	修士(工学)	0.98	平成18年度 改組		
高分子機能工学専攻	2	35		70	修士(工学)	1.00	平成18年度 改組		
物質工学専攻	2	48		96	修士(工学)	1.05	平成18年度 改組		
電子システム工学専攻	2	40		80	修士(工学)	1.12	平成18年度 改組		
情報工学専攻	2	40		80	修士(工学)	1.08	平成18年度 改組		
機械システム工学専攻	2	55		110	修士(工学)	1.07	平成18年度 改組		
デザイン経営工学専攻	2	18		36	修士(工学)	1.00	平成18年度 改組		
造形工学専攻	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成18年度 改組		
デザイン科学専攻	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成18年度 改組		
建築設計学専攻	2	—	—	—	修士(建築設計学)	—	平成18年度 改組		
デザイン学専攻	2	25		50	修士(工学)	1.04	平成26年度 設置		
建築学専攻	2	75		150	修士(工学)又は(建築設計学)	0.98	平成26年度 設置		
先端ファイブ科学専攻	2	30		60	修士(工学)	0.95	平成18年度 改組		
バイオベースマテリアル学専攻	2	22		44	修士(工学)	1.09	平成22年度 設置		

工芸科学研究科博士後期課程						1.15		
生命物質科学専攻	3	15	45	博士(学術)又は(工学)	1.00	平成18年度改組	平成26年より学生募集停止	
設計工学専攻	3	9	27	博士(学術)又は(工学)	0.92	平成18年度改組		
造形科学専攻	3	—	—	博士(学術)又は(工学)	—	平成18年度改組		
デザイン学専攻	3	5	15	博士(学術)又は(工学)	0.60	平成26年度設置		
建築学専攻	3	7	21	博士(学術)又は(工学)	1.00	平成26年度設置		
先端ファイブロ科学専攻	3	8	24	博士(学術)又は(工学)	2.17	平成18年度改組		
バイオベースマテリアル学専攻	3	6	18	博士(工学)	0.61	平成24年度設置		

(注) ・ 本調査の対象となっている大学等の設置者(国立大学法人)が設置している全ての大学(学部, 学科)及び大学院(専攻)(AC対象学部等含む)について, それぞれの学校種ごとに, 平成26年5月1日現在の上記項目の情報を記入してください。

(ただし, 専攻科に係るものについては, 記入する必要はありません。)

- ・ 「平均定員超過率」には, 標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点第2位まで(小数点第3位を切り捨て)を, 学科単位で記入してください。
- ・ 学生募集を停止している学部等がある場合, 入学定員と収容定員は「—」とし, 「備考」に「平成〇年より学生募集停止」と記入してください。
- ・ 大学においては学科単位, 大学院においては専攻単位で記入してください。

5 教員組織の状況

<工芸科学研究科 デザイン学専攻（前期課程）>

(2) 専任教員数

設置時の計画			変更状況			年齢構成	
研究指導教員	研究指導補助教員	計	研究指導教員	研究指導補助教員	計	定年規定の定める定年年齢	定年を延長している教員数
12	3	15	11	3	14	63	0
()	()	()	[Δ1]	[]	[Δ1]	歳	名

<工芸科学研究科 デザイン学専攻（後期課程）>

(2) 専任教員数

設置時の計画			変更状況			年齢構成	
研究指導教員	研究指導補助教員	計	研究指導教員	研究指導補助教員	計	定年規定の定める定年年齢	定年を延長している教員数
12	3	15	11	3	14	63	0
()	()	()	[Δ1]	[]	[Δ1]	歳	名

<工芸科学研究科 建築学専攻（前期課程）>

(2) 専任教員数

設置時の計画			変更状況			年齢構成	
研究指導教員	研究指導補助教員	計	研究指導教員	研究指導補助教員	計	定年規定の定める定年年齢	定年を延長している教員数
19	8	27	21	9	30	63	0
()	()	()	[2]	[1]	[3]	歳	名

<工芸科学研究科 建築学専攻（後期課程）>

(2) 専任教員数

設置時の計画			変更状況			年齢構成	
研究指導教員	研究指導補助教員	計	研究指導教員	研究指導補助教員	計	定年規定の定める定年年齢	定年を延長している教員数
19	8	27	21	9	30	63	0
()	()	()	[2]	[1]	[3]	歳	名

- (注) ・「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入し、「変更状況」には、平成26年5月1日現在（就任予定の者を含む）の状況を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）
- ・「年齢構成」には、当該学部における教員の定年年齢および、平成26年5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数を記入してください。
 - ・なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

7 その他全般的事項

<工芸科学研究科 デザイン学専攻、建築学専攻>

(4) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書

a ホームページに公表の有無 (有 ・ 無)

b 公表時期 (未公表の場合は予定時期) (26年 6月 下旬)